

令和元年度 総務委員会 県外視察の概要

1 参加委員

岡田 理絵(委員長), 福山 博史(副委員長), 中山 俊雄, 岩佐 義弘,
岩丸 正史, 立川 了大, 臼木 春夫, 達田 良子, 原井 敬, 扶川 敦

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月19日(月)	五城目町地域活性化支援センター (秋田県南秋田郡五城目町)
8月20日(火)	太宰治記念館「斜陽館」 (青森県五所川原市)
	田舎館村企画観光課 (青森県南津軽郡田舎館村)
8月21日(水)	住んでみんなで徳島で！移住相談センター (東京都千代田区)

3 調査目的及び視察概要

(1) 五城目町地域活性化支援センター

(調査目的)

秋田県は、総務省の人口推計(2018年10月1日現在)では、人口減少率1.47%と6年連続で全国で最も高く、また、内閣府の高齢社会白書(2017年現在)では、高齢化率においても35.6%と全国で最も高く、2045年には50.1%になる見込みである。なかでも、五城目町は、高齢化率が高く、早いスピードで人口減少が進み、生産力の低下、空き家の増加など数多くの課題を抱えている。

過疎地域における地域交流拠点として、廃校した小学校を活用した「五城目町地域活性化支援センター」における、新しい雇用の創出を生み出せる企業誘致の場、地域コミュニティ活動の場としての取組について、調査する。

(視察概要)

施設を視察した後、廃校を利用した地域交流拠点の取組について、説明を受けました。



(2) 太宰治記念館「斜陽館」

(調査目的)

本県においては、文化財の保護及び活用を、知事部局の文化芸術振興などの関連施策と一体的に推進することにより、文化財の魅力に一層の磨きをかけ、文化財保護意識の高揚と地域の活性化につなげるため、5月から「文化財の保護に関すること」が、教育委員会から県民環境部の分掌事務となった。

国の重要文化財（建造物）に指定され、明治期の木造建築物としても貴重な建物である、太宰治の生家「斜陽館」について、奥津軽地方の観光の中核として、蔵を利用した資料の展示や定期的なイベントを開催するなどの、文化財の保護及び活用による地域活性化の取組について、調査する。

(視察概要)

文化財の保護及び活用による地域活性化の取組について説明を受けた後、施設を視察しました。



(3) 田舎館村企画観光課

(調査目的)

有数の稲作が盛んな田舎館村においては、平成5年に「田んぼアート」を村おこし事業としてスタートし、芸術性の高さから話題となり、現在では、全国から年間30万人以上を集客している。また、全国各地へ広がりを見せており、全国田んぼアートサミットが開催されるまでになっている。

単に見るだけでなく、稲刈り体験ツアー等を実施し、農業に触れる機会を提供するとともに、地元大学と連携し、大学生が田んぼアートの田植えなどに参加するなど、村民を中心に、ツアー参加者や大学生等を巻き込んだ、イベント型地域活性化等による地域づくりについて、調査する。

(視察概要)

田んぼアートによる地域づくりについて説明を受けた後、第一田んぼアート及び第二田んぼアートを視察しました。



(4) 住んでみんで徳島で！移住相談センター

(調査目的)

本県においては、東京本部の拠点機能を生かし、各種物産展への出展や観光商談会をはじめ、本県の魅力体験イベントを開催するなど、各県域の特性や強みを生かした魅力発信に取り組み、「徳島ファン」拡大を図っている。

また、5月に、本県の魅力発信を一元的に統括する「情報発信幹」を東京本部に新設するとともに、首都圏における本県の移住相談・発信の拠点である「住んでみんで徳島で！移住相談センター」のブース拡充を図り、相談・PR体制を強化していることから、首都圏における全国的な移住動向の把握と「とくしま回帰」に係る取組の状況について、調査する。

(視察概要)

首都圏における「とくしま回帰」の取組について説明を受けた後、住んでみんで徳島で！移住相談センターのブースを視察しました。

